

令和7年度一般選抜試験

学 力 試 験

数学，物理，化学，生物，日本史， 世界史，英語，国語

令和7年2月24日 9時30分—11時30分

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 各科目の問題は下記のページにある。

科目名	数 学	物 理	化 学	生 物	日本史	世界史	英 語	国 語
ページ	3～7	8～12	14～19	20～27	28～33	34～38	39～50	51～63

国語は順序が逆で63ページ(国語1)から始まり51ページ(国語13)で終わるので注意すること。

- 3 出願時に届け出てある2科目の問題に解答すること。これに違反した解答は無効とする。
- 4 解答には黒鉛筆、黒色シャープペンシル又は黒色ボールペンを使用すること。
- 5 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入すること。
- 6 解答用紙の指定欄に志望学科・コース、受験番号、氏名を記入すること。
- 7 解答の記入の仕方については、解答用紙並びに問題の初めに書いてある注意に従うこと。
- 8 本冊子の余白は計算・草稿用に使用してよい。ただし、切り離さないこと。
- 9 試験時間内の答案提出、退室は認めない。
- 10 問題冊子及び解答用紙は、全て回収するので持ち帰らないこと。

学 科 ・ コ ー ス		受 験 番 号							氏	
									名	

上欄に志望学科・コース、受験番号、氏名を記入すること。

国語

問題〔一〕～〔四〕のうち、〔一〕は必ず解答すること。また、〔二〕～〔四〕のうち二つを自由に選んで解答すること。
なお、問題の中で字数が指定されている場合は、特に指示のない限り、句読点等を字数に含めること。

〔一〕 次の文章を読んで設問に答えよ。

いまの日本で民主主義が空洞化しているのは、民主主義的な合意形成の技術知を身につけた「大人」がいなくなりつつあるからです。だから、いくら時間をかけても合意形成ができない。それで苛立つて、もう面倒だから、多数決で決めようとか、誰かに全権を委託して決めてもらおうとかいう安直な結論に飛びつくようになる。

そういう風潮になってきているのは、民主主義が非効率な制度であることが暴露されたからではなく、市民たちが合意形成を成功させるだけの成熟に達していないということなんです。市民の幼児化が民主主義の機能不全をもたらしている。それを制度のせいにして、「もっと簡単なシステムにしてくれ」と言っている。そうすると、市民がいくら幼児的でも機能する単純なシステム、合意形成の手間がかからないシステムが望ましいということになる。多数決で「独サイ者^a」を選び出して、それに全部決めてもらうというのが一番手間がかかりません。民主的手続きを経て、非民主的な統治システムが合法的に成立するという事例は二〇世紀にはいくらもありましたけれど、これは制度の問題である以上に、市民の未成熟の問題だったと僕は思います。

いまの日本で進行している民主主義の空洞化というのは、複数の異論をすり合わせるということそれ自体ができなくなっている日本人の幼児化の帰結です。もう「三権分立」ということの意味がわからなくなっている。両院制の意味さえ理解されていない。

② 「ねじれ国会」という言葉を一時期メディアはぜひぶん書き立てましたけれど、それは「ねじれていない国会」が望ましいかたちだという予^bダ^cン^dがなければ出て来ない言葉です。衆院参院の政党別議席比率が同じであれば、たしかに「ねじれて」はいない。でも、それではそもそも両院を設ける意味がない。
A 両院制は何のためにあるのか。

両院制というのは、選挙方法も任期も被選挙者の条件も違う議会を並列させることで、簡単には話がまとまらないようにした仕組みです。簡単に話がまとまらないから、法案審議において、さまざまな視点からの吟味がなされ、結果的に、国民のさまざまな言い分を汲み上げた政治決定ができる。

戦後最初の選挙の時、参院の最大会派は無所属議員が集って作った「緑風会」でした。衆院にはなかった会派ですから、「ねじれ」どころの騒ぎじゃ

ない。

「ねじれ国会」がそんなに不満なら、両院制廃止を主張すればいい。「行政府と立法府のねじれ」も気に入らないのなら、三権分立を廃した行政の独サイがあるべき政治のかたちだと主張すればいい。そこまでの覚悟がないなら、簡単に「ねじれ」というようなことを言って欲しくない。

合意形成するためには技術と器量が要ります。民主制というのは主権者を成熟させるための制度なんです。民主制以外の制度は、王政でも貴族政でも寡頭政にしても、主権者は国民のごく一部であり、その人たちだけが賢者であれば、統治は揺るがない。民衆は幼児で無思慮であつても、別に困らない。民衆が幼児的であつて、自治能力がない方が治めやすい。民主制は逆です。国民の中における「大人」の比率が多いほどよく機能し、

「大人」の頭数が減ると機能不全になるように設計されている。だから制度そのものが遂行的に市民に向かって「成熟してくれ」と訴えている。そんな政体は他にありません。それが民主制の手柄だと僕は思っています。

C、民主制は面倒なんです。手間暇をかけて合意形成をして、落としどころを探り、調停に際しては身銭を切らなくちゃいけない。でも、そういう面倒な対話の場数を踏んでゆくことを通じて市民的成熟は果たされる。

いま民主制に反対する人たちの言い分は、要するに「私は幼児のままでもいい」ということです。幼児であつて、この先成長する気もない、と。だから、幼児でもコントロールできるシンプルな統治の仕組みに変えろ、と。僕が先ほどから「管理コスト最少化原理主義」と呼んでいるのは、この幼児性への固着のことです。「成熟したくない」という訴えのことです。成熟して、複雑な問題を扱うような社会的能力を獲得する気がない。勝った者がソウ取りして、トップが全部決めて、対話も合意もなくて、ただ命令と服従だけのシステムにして欲しい。

でも、もちろん、そんなシンプルなシステムでは複雑な現実には対応できません。複雑な状況には、自分自身を複雑なものにすることによってしか対応できない。そんなのは生物としては当たり前のことです。ですから、システムを単純化すればするほど、システムは機能不全になり、脆弱になる。

生命は進化します。進化というのは複雑化することです。細胞が二つに分裂して、四つに分裂して、八つに分裂して、そうやって複雑なものになってゆく。それが生物の成長であり、進化です。生物は放っておけばより複雑なものになり、複雑なふるまいをするようになり、より複雑なゲームをするようになる。

でも、いまの人間世界はその逆に向かっている。現実はどうでも複雑化して、操作することが難しくなっている。変数がどんどん増えるので、それに対してもう人間の知力では演算が追いつかなくなった。演算能力の限界を超えたので、自分の知力を向上させることを諦めて、システムを単純化することにした。たしかにシステムはシンプルになった。でも、機能はどんどん落ちる。問題処理の仕組みが単純化されるにつれて、問題処理能力は低下する。③ 複雑な現実と単純なシステムの間の乖離が日々拡大している。

複雑な現実に対処するためには、複雑なシステムを制御できるように、人間そのものが複雑化しなければならない。別に難しい話じゃありません。複

雑化するのは生命の自然なものですから。それに任せればいい。子どもには「成長したい。もっと複雑で、もっとわかりにくいものになりたい」という自然な欲求があります。それを邪魔することはないんです。お願いだから、みんな大人になってくれ、と。僕たちが子どもにそうお願いすればいい。

「子どもにでも操作できる簡単な仕組み」を子どもに提供するというのは、子どもの成熟にとってシ^dするところがありません。D、子どもでも操作できるものを与えれば、子どもはある種の全能感を覚えるかも知れません。けれども、成長のインセンティブは与えられない。成長を促すのは全能感ではなく、不全感だからです。自分にはできないことがある。それができるようになりたいという不全感が、子どもたちの「学び」を起動させる。

でも、いまの日本では社会全体を「子どもでも操作できる仕組み」にしようとしている。「複雑化することは進化することである」というメイ^o題を逆から言えば、「X」ということです。

(内田樹『複雑化の教育論』による)

問一 傍線部a～eのカタカナを漢字に直した時、最も適切なものを次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a | 「サイ」 | ア | 再 | イ | 債 | ウ | 裁 | エ | 採 | オ | 災 |
| b | 「ダン」 | ア | 団 | イ | 談 | ウ | 弾 | エ | 暖 | オ | 断 |
| c | 「ソウ」 | ア | 相 | イ | 走 | ウ | 双 | エ | 創 | オ | 総 |
| d | 「シ」 | ア | 史 | イ | 氏 | ウ | 師 | エ | 資 | オ | 支 |
| e | 「メイ」 | ア | 命 | イ | 明 | ウ | 姪 | エ | 迷 | オ | 名 |

問二 空欄 A、D に当てはまる最も適切な語句をア～オの中から一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号は二度使わない。

- ア むしろ イ だから ウ たしかに エ いったい オ とはいえ

問三 傍線部①「民主主義が空洞化している」とあるが、これを説明した次の文の空欄(1)・(2)に当てはまる語句をそれぞれ本文中から抜き出し、(1)は四文字、(2)は五文字で答えよ。

民主制の担い手である市民の多くが、手間暇をかければ可能なはずの(1)を面倒なものとして避ける傾向にあるため、面倒な対話の中で場数を踏むことで身につくはずの技術と器量を持たず、(2)を果たした「大人」になれない結果、民主主義が機能不全に陥っている。

問四 傍線部②「ねじれ国会」という言葉に対する筆者の考え方について最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 日本人の幼児化が進みすぎたため、「ねじれ国会」を克服して「ねじれ」をもとに戻すための政治決定ができなくなっている。
- イ メディアが「ねじれ国会」をあたかも望ましくないかのように書き立てた結果、戦後最初の選挙の時の最大会派である「緑風会」の記憶が風化してしまった。
- ウ 「ねじれ国会」を望ましくないと考える人は両院制の廃止を主張する覚悟をすべきであるが、誰もそのようなことを主張していないのは嘆かわしい。
- エ メディアが「ねじれていない国会」が望ましいという前提での報道を繰り返した時期があったが、メディアは同時に三権分立の廃止も主張するべきであった。
- オ 国民の様々な視点や言い分を反映する政治決定を可能とする仕組みが両院制であるのに、メディアがその意味も分らず「ねじれ国会」を書き立てた時期があった。

問五 傍線部③「複雑な現実と単純なシステムの間の乖離」が生じる理由について「現実」「民主主義」「幼児化」の三つの語句を必ず用いて、「ため。」で終わるように三十五文字以上五十文字以内で説明せよ。ただし、「ため。」は文字数に含まないこととする。

問六 空欄 X に当てはまる最も適切な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 非民主化することは悪化することである
- イ 効率化することは正常化することである
- ウ 単純化することは退化することである
- エ 幼児化することは脆弱化することである
- オ 民主化することは効率化することである

〔二〕

次の文章を読んで設問に答えよ。

① ことばを使うことが、人間だけの特技であるかどうかについては疑問がないわけではない。動物学者たちは、トゲウオやカモメ、そしてさらには、人間にひじょうにちかいサルの群れなどを観察して、これら動物の世界で、人間のことばとたいへん似た過程が進行しているという事実を発見している。そして、そのような発見についての報告を読めば読むほど、動物の「ことば」と人間のことばのちがいは程度の差にすぎないのではないかと、考えたくもなる。しかし、かりに程度の差であるとしても、人間の使っていることばと、動物のそれとのあいだには、大きな割れ目があるようだ。

なぜなら、人間同士ことばを使うことによって、お互いに「わかる」ことができるからである。動物の社会にも、ことばに似た現象はあるが、人間がことばによって「わかる」とおなじような作用は、動物にはない。そこにあるのは、とりわけ下等動物になればなるほど特定の刺戟げきにたいするほど本能的な反応のようなものであって、人間同士のあいだにはたらく「理解」作用ではけっしてないのだ。

それではいったい、「わかる」というのはどういうことなのか。たぶん心理学者のいう共感(empathy)という考え方が、この問題を考える場合、有力な手がかりのひとつになる。

たとえば、お医者さんと患者との関係を考えてみよう。患者は、からだのある部分の痛みを訴えている。かれは医師に、その患部が「痛い」という。その「痛い」ということばをきいたとき、医師の内部ではひとつの過程が発生する。それは、患者が「痛い」ということばによって表現しているからただの状態に似た状態を、みずからの体験に即して想像する過程である。

医師みずからは、べつだんその部分に痛みを感じるわけなのではない。しかしかれは、患者が痛い、ということばによって表現しようとしているからだの状態がどのような性質のものであるかを知っているのである。

ひとりの人間の内部に発生している状態ときわめてよく似た状態がもうひとりの人間の内部に生ずる過程、それが共感である。そして、それはしばしば、生理的な次元でも発生する。たとえば、前記の痛みの経験だが、母親と子どもといったこまやかな関係のなかでは、痛みはたんに想像上経験されるだけでなく、実際の生理的な痛みとして体験されることがある。子どもが「痛い」というたんに、母親もその部分がほんとうに痛くなったりするのだ。

もつと単純な生理的共感は、たとえば、乳離れしたばかりの幼児にものを食べさせたりするときの親子の情景を思いうかべてみればよくわかる。子どもにアーンと口をあけさせるとき、しぜんに親の口も、そんなふうにはひらかれてしまう。親が口をあけるから子どもがそれを A のだともみえるが、子どもが口をあけるのにつりこまれて、親が口をあけてしまうようにもみえる。そんな経験は、誰でももっているはずである。

親しい人間同士を形容して「ともに笑い、ともに泣く」という表現が使われるのは、このような共感能力と関係する。ある人間によるこびがそのままもうひとりの人間によるこびになる、^② というのは、ふたりの人間のあいだに高度の共感が成立するということだ。ひとの悲しい経験に「貫もい泣き」した

り、面白い話に「釣りこまれ」たり、という表現は、すべて、人間同士のあいだではたらく共感のふしぎな作用をあらわしているといつてよい。

この共感作用は「同一化」(identification) ということばで記述される過程とかさなりあう。同一化とは、相手方の置かれていた状況だの、相手方の内部で発生している状態だのと似た状況や状態を体験することだ。それは、われわれが小説を読んだり、映画を見たりするときのことを思い出してみたい。

たとえば、にをような大活劇というのがある。映画館のスクリーンのうえでは、ビルの屋根のうえをとんで渡ったり、スポーツ・カーで追跡をしたり、という活劇が展開している。それを見ているうちに、われわれはその活劇に釣りこまれる。スポーツ・カーが走りまわっている場面では、あたかも自分がその自動車を運転しているような気持ちになって、目のまえに突然ガケがあらわれたりするとハラハラしてしまう。ビルの屋上に追いつめられて、隣りのビルにとび移る場面では胸がドキドキする。まさしく「にを」のである。そして、そのときのわれわれは、映画のなかの登場人物に自分自身を置きかえているとはいえないか。

小説を読んでいるときもそうだ。主人公の境遇だの、人生の設計の仕方だの、われわれは小説を読みすすめるにつれて、主人公の立場と自分を密着させてしまう。主人公が悲しければ、読者であるわれわれも悲しくなる。主人公がよろこべば、われわれもよろこぶ。われわれは主人公の「身になって」しまうのである。

共感、あるいは同一化がどんなふうにしてわれわれの内部で発生するのかはよくわかっていない。しかし、われわれは事実の問題、あるいは体験の問題として、共感の現象があることを知っている。われわれは「相手の身になる」能力をもっているのである。

(加藤秀俊『人間関係』による)

問一 傍線部①「ことばを使うことが、人間だけの特技であるかどうかについては疑問がないわけではない」から続く筆者の主張をまとめた次の一文の空欄 ・ に当てはまる語句について、それぞれ本文中から二文字で抜き出し、答えよ。

動物の「ことば」は本能的な反応であり結果としての と捉えることができ、人間の「ことば」はお互いに「わかる・理解」の として働いたため、動物と人間の「ことば」については大きな隔りがある。

問二 空欄 に当てはまる最も適切な語句を次のア～カの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 期待している
- イ 凝視している
- ウ 面白がっている
- エ 拘泥している
- オ 模倣している
- カ 鼓舞している

問三 傍線部②「ふたりの人間のあいだに高度の共感が成立する」のは何によるのかについて説明した箇所を「く」ことによる。」に続くように本文中から十七文字で抜き出し、その始めの五文字を答えよ。

問四 空欄

X

 く

Z

 について本文の内容に合致する慣用句となるように、最も適切な語句を次の(1)・(2)・(3)のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|---|---|---|----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| (1) | 空欄 | <table border="1"><tr><td>X</td></tr></table> | X | ア | すね | イ | 目 | ウ | 手 | エ | 口 | オ | 腕 |
| X | | | | | | | | | | | | | |
| (2) | 空欄 | <table border="1"><tr><td>Y</td></tr></table> | Y | ア | 汗 | イ | 角 | ウ | 水 | エ | 傷 | オ | より |
| Y | | | | | | | | | | | | | |
| (3) | 空欄 | <table border="1"><tr><td>Z</td></tr></table> | Z | ア | もつ | イ | たてる | ウ | かける | エ | にぎる | オ | ふくむ |
| Z | | | | | | | | | | | | | |

問五 本文の内容と合致しているものを次のア～カの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 人間同士が「わかる」ためには、ひとりの人間の内部に発生している状態と似た状態をもうひとりの人間が想像する「共感能力」が作用して可能になる。
- イ 自分は痛くないのに相手の「痛み」を理解できるのは、自分の体験にあてはめて「痛み」を想像するという「共感」のプロセスを経ているためである。
- ウ 「共感」は「同一化」の過程と重なり合うが、生理的な次元の共感体験が重要となるため人それぞれの想像力によって我が身に置き換えられない人もいる。
- エ 「同一化」は相手が置かれている状況や状態を自分自身に置きかえたり、まるで自分が行っているような気持ちになったりする状態を経験することである。
- オ 親しい人間同士の間で「よろこびを共有する」という体験を繰り返すことで「共感」の能力が高まっていき、その後には「同一化」の過程が出現する。
- カ 相手の状況や気持ちを押し量っていく体験をするなかで自然と相手の立場と自分とを密着させていく過程は、「共感」や「同一化」のために必要である。

〔三〕

次の文章を読んで設問に答えよ。

幼い子どもたちを見ていると、「ことば」を正しく使おうと一所懸命です。どの子も思うようにまわらない舌を苦心さんたんしながら動かし、何とか自分の気持ちを伝えようとしています。

真剣な、生き生きした表情は、幼児ならではです。話したいという意気込みが、目もと口もとだけではなく手足の先々にまでみなぎって、全身で語りかけてきます。そして、相手に通じたときの嬉しそうな表情！ その満足の度合いがどんなに深いものか **A** です。

それだけに、わかってもらえないと悲劇です。カンシヤクを起こしたり、泣きわめいたり不満のありつたけを示します。すると、察しの悪いおとなは「聞きわけのない子ねえ」ときめつけ、自分は反省しません。はなはだ困ったことです。

保育園で子どもの語りかけをどうやってキャッチするか、私は **B** していました^①。子どもの気持ちを、その場ですばやく理解しなくては失格です。

一所懸命話してくれる子どもに、やたら「え？」と聞き返しては失礼ですし、こちらの信用にもキズがつかます。そこで多少わからなくても、急場しのぎに「うん、うん」「そう」「へえー」「そうなの、よかったわねえ」なんて子どもの表情に調子をあわせておき、あとでじっくり、「あれは、どういう意味だったのか」と、事件のカギを解く探偵よろしく推理したものです。負け惜しみをいうようですが、面白い謎解きでもありました。

この謎解きのコツは、子どもたちとの日ごろのふれあいを大事にすること、これがいちばんです。そしてさらに、相手について一つでも多く知っていれば、ますます有利です。性格、体質、特技はもちろん、家庭のこと、環境のこと、親類縁者のこと、田舎はどこか、その子について知っていれば知っているほど謎解きはうまくいきます。

幼い子どもは、自分に印象の深かったことや、自分に身近な問題は誰にとってもそうだと思いきこんでいるので、いきなり目を輝かせ「ほら、あそこ」で「とか」「あるとき、あったでしょう」とか「あれのことだよ」と相槌を求めます。

子ども同士ですと、この感覚が簡単に通じるらしく、Aちゃんの田舎、Bちゃんのおばあさんの家、Cちゃんのおじさん、Dちゃんがオムレツを食べたレストラン、といった設定がクラス全員の知るところになって、一つの話題が共通体験のようになり返し語られ、話はいくらでもはずみしました。

このように、三歳四歳の子でもでさえ自分のことばで精いっぱい表現したことが、間違いなく友だちに伝わるのです。ただし、自分のことばを一方的にしゃべって、他人の話を聞かない子は敬遠^{けいゑん}されます。友だちの話を一所懸命聞く子どもでないと相手にされません。幼い子の世界で話の上手下手は、語いの数や舌の回転とは関係ありません。^②よい聞き手が、よい話し手になります。

私に話しかけてくる子どもは、私の話もよく聞いてくれました。それも、耳だけで聞くのではなく、目をこらして私を見つめ、全身でことばの意味を

理解します。そうなると私も、きちんと通じることばを使うよう、注意深くなります。つまらない長話をするわけにはいきません。子どもにわかるよう具体的に、親切に、正確に話すことが大事です。

話がぼやけると、てきめん、子どもの関心は私から離れていきます。そのときの空しさはたとえようありません。それから「今忙しいから、あとで」は禁句です。幼い子に「あとで」は通用しません。目と耳は「備えよ常に」の状態にしておきます。

保育園での日々、子どもたちとのこうしたやりとりが、「子どもとどうつきあうか」待ツタナシの厳しい修業になりました。

創作にかかるときはいつも、この子どもたちと面と向かいあっているつもりで大へん緊張します。イメージの浮かばない表現は許されず、あやふやなストーリーは禁物。ひたすら、わかしてもらえるように、そっぽを向かれないようにと、最も確実な表現方法——ことば——をさがします。

こうして、保育士・作家、二つの立場で子どもたちと直接・間接に接してきてわかったのは、正しい日本語がいちばんよく通じることです。なぜなら、子ども自身が正しく話そうとしているからです。

幼児語というものがありますが、あれは幼い子が正確に話そうと学習する過程の現象でしょう。通過するときれいさっぱり忘れれます。

幼児語や赤ちゃんことばは、むしろおとなが好んで使うようです。赤ちゃんのおしゃべりを真似すれば、おのずとやさしい気分になれます。子どもに「やさしい人」の好印象を与えるには、もってこいです。

幼児語で、やたら「お」をつけるのも同様ではないでしょうか。たとえば「手をひざにおきなさい」というと、口調によっては威圧的になりますが、「お手々を、おひざに」なら、どんな調子でいっても、恐ろしくはなりません。「おすわりしましょう」「お手々をつないで」「おもちゃを、おかたづけね」「おくちをむすんで」といった日常語は、^③どうも、体のよい方便に思えます。

でも、最近のお母さんたちは幼児語をあまり使わなくなりました。子どもに対して、おとなのことばで話すようです。

^④私も幼い子どものために正しい日本語で、立派な文章を書けるようになりたいいつも思っています。

(中川李枝子『本・子ども・絵本』による)

問一 空欄 A・B に当てはまる四字熟語について本文の内容に合致するものを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答え

よ。ただし、同じ記号は二度使わない。

- ア 四苦八苦
- イ 一知半解
- ウ 疑心暗鬼
- エ 三々五々
- オ 首尾一貫
- カ 一目瞭然

問二 傍線部①「子どもの気持ち、その場ですばやく理解しなくては失格です」とならないための方策について「〜する。」に続くように本文中から十五文字で抜き出し、答えよ。

問三 傍線部②「よい聞き手が、よい話し手になります」の説明として当てはまるものを次のア～オの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 幼い子どもは舌が思うように動かないために何を言っているのか伝わっていないときでも、聞き手の相槌によりたがいに共有できる。
- イ 子どもが話し手である場合は話したい気持ちは伝わっているものの、理解できない時には聞き手が調子を合わせることで話がはずむ。
- ウ 聞き手である子どもは全身でことばの意味を理解しようとし、同時に話し手の子どもは全身で語りかける努力をして伝え合っている。
- エ 子どもたちは自分の身近な問題はみんなが知っていると思うので、何度も繰り返し表現することで「話す」「聞く」が成立する。
- オ まわらない舌でも伝えたいという意気込みをもって子どもが話することができるのは、一所懸命に聞くという聞き手の存在が前提にある。

問四 傍線部③「体のよい方便」を言い換えた場合に本文における意味として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 照れ
- イ でたらめ
- ウ 見栄
- エ ごまかし
- オ おしつけ

問五 傍線部④「幼い子どものために正しい日本語で、立派な文章を書けるようになりたい」と筆者が考える理由として当てはまるものを次のア～カの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 子どもはまわらない舌でも自分の気持ちを一所懸命に話してくれることから、文章でも気持ちを重視した表現が目されるため。
- イ 相手に話を通じたときの子どものはとも嬉しそうな表情をすることから、おとなに話が伝わる満足感を得ることが必要であるため。
- ウ 子どもは印象の深かったことや身近な問題を共通体験として覚えていることから、子どもには共感力の高さが備わっているため。
- エ 具体的に、親切に、正確に話すと子どもたちにきちんと通じることから、イメージが明確に伝わる表現の選択が重要になるため。
- オ 赤ちゃんことばや幼児語はおとなが好んで使うことから、文章中に上手に取り入れることでやさしい気持ちになれるため。
- カ 幼児語は学習の過程の現象であり子ども自身は正しく話そうとすることから、子どもには確実な表現方法がふさわしいため。

(四)

次の文章を読んで設問に答えよ。

これまでの学校での勉強の仕方には、ある「前提」がありました。それは、教科別に学ぶことから始めて、それぞれの分野を後で総合することで、自分の人生や社会での生活に知識や技術を活かしていくという学びの順序です。別々の教科から学んで、総合する。別々の教科を学んだ人が、あとで共同することが想定されています。^①しかしこの学びの順序は正しいでしょうか。

現代社会は、科学によって成り立っている社会です。科学は、「科目」、すなわち分野に分かれた知識ですから、専門化していきます。この専門化こそが科学を正確で厳密な知識にしているのですが、他方で、この傾向には大きな問題点もあります。それは、専門化が進みすぎてしまい、分野間で相互に理解できなくなることです。

これは危険な断片化です。^②世界の一部の断片だけをよく知っていても、全体が見失われてしまうならば、どれほどの意味があるでしょう。身体の腸の働きの一部がよくわかって、健康とは何なのか、身体をいたわるとは何なのかを考えなければ、そこで得た知識はどれほど重要でしょうか。科学がそれぞれの分野でバラバラに進んでしまうと、専門家たちも他の分野がまったくわからなくなってしまいます。科学者も自分の専門以外は、まったくの素人です。医者は建築については何も知らず、法律家は農作物の肥料の効果についてはまったく知りません。

科学の専門化に対応するように、私たちの社会も専門性によって分けられています。分けられても誰かが全体を調整できればいいのですが、その役割はどの学問が担当するのでしょうか。いったいだれが担当するのでしょうか。

さらに、ある分野の知識をどれだけ獲得したかで、専門家と素人の序列が生じてきて、素人は専門家に従うしかなくなります。専門性が重視される社会では、専門家が優位になり、自分の分野を發展させようとしています。しかし、全体が見えないままに自分たちの分野だけの發展を望めば、社会に大きなアンバランスが生まれてしまいます。場合によっては、A、自分たちのグループだけの繁栄を願う分野エゴ、組織エゴに陥る場合さえあります。

全体が見失われると、社会が分断されるだけではありません。教育を受ける児童・生徒の立場に立てば、それぞれの科目が何の役に立つのか、これを学んでおくことが自分の人生とどうつながるかかわからないままに学年が進むことになります。そうすると、その科目を学ぶ意欲が失われていっても不思議ではありません。最終的には勉強する目的も、受験以外にはなくなっていくでしょう。

中学生になるとよく生徒が「これを勉強すると何のためになるのか」という疑問をしばしば持つようになりますが、それは、知識と社会の関わりについての全体像がないままに学び続けることへの抗議なのです。

ある高校では、医学部受験を志望する生徒に、受験に必要な科目だけではなく、倫理や社会などの時間を使って、「健康とはどういうことか」「生命と

は何か」「医療は人にとってどういう意味を持つのか」といったことを考えさせ、レポートさせているといえます。これは、受験用の知識だけを学ばせるのではなく、医学とは何かを広い視野から考え直させるためのものです。

なぜ、こういう授業を設けているかという点、難関の医学部に入ったのはいいけれど、入学後に医学を学ぶ意欲がわずかに、途中で目的を見失ったり、挫折してしまったりする人がかなりの数出てしまうからです。医学部に限らず、受験を目標として学んできた人は、大学に入学してから、突然に学ぶ意欲を失いがちなのです。

③ 学ぶことにおいて最も重要なのは、学ぶ意欲と動機をずっと持ち続けることです。学ぶことが、自分の人生に結びつき、社会のなかに位置づけられ、意味づけられることによって、はじめて人は学ぶ意欲を持てます。探究型の学習を高校ではもちろん、小中学校でも実施すべきなのは、探究では、知識の全体性が見失われることなく学ぶことができるからです。科目・教科は、バラバラに学んだ後に総合されるべきではなく、最初から全体のなかに位置づけられながら学ばれるべきなのです。

大学での学びは、**X** を追求すると同時に、その分野の知識と **Y** の知識との結びつき、そして知識と **Z** との結びつきがとても重視されます。大学での学びは、専門的であるとともに、横断的・総合的です。高校までで、その学びのための準備をしておいた方がいいのです。高校生で自分の将来像を明確にもてなくてもかまいませんし、職業について迷いがあってもいいのです。ただ、探究的な学びをすることで自分の関心や興味の方角性、好きなことと苦手なことが見えてきます。これが大切なのです。

(河野哲也『問う方法・考える方法 「探究型の学習」のために』より)

※本文(出典の文章)では太字となっている箇所を、問題文では太字ではなく他の文字と同じとした。

問一 傍線部①「しかしこの学びの順序は正しいでしょうか」という疑問の理由が示されている箇所について本文中から三十字で二箇所抜き出し、それぞれ始めの五文字を答えよ。

問二 傍線部②「世界の一部の断片だけをよく知っていても、全体が見失われてしまう」ことによりどのようなことが起きるのかについて本文中から八文字で抜き出し、答えよ。

問三 空欄 A に当てはまる最も適切なものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 社会に利益を還元できるようにして イ 社会へ迎合しようとして ウ 社会の利益を犠牲にして
エ 専門家に対する賞賛が集まって オ 専門性を担保しようとして カ 専門家の知識を犠牲にして

問四 傍線部③「学ぶことにおいて最も重要なのは、学ぶ意欲と動機をずっと持ち続けること」の説明として当てはまるものを次のア～オの中からすべて選び、記号で答えよ。

- ア 正確で厳密な知識は科学には必要なものであるので、専門性への理解をした上で学びの内容を選択してほしいということ。
イ 自分の関心や興味の方向をしっかりと知った上で学びに向かうことをしないと、学びの継続が難しくなるということ。
ウ 専門家と素人では序列が生じてしまうため、できるだけ専門性が高まる努力をしながら学びの目標を持つということ。
エ 学ぶことと人生とが結びつき、社会の中での位置づけや意味づけがされることにより学びの目的が堅固になるということ。
オ 知識が人生や社会と関わっていることに気づけるように、受験に必要な科目に新しい学び方を取り入れていくということ。

問五 空欄 X Y Z に当てはまる語句の組み合わせが適切なものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------|---|----|---|---|-----|---|-------|---|----|
| ア | X | 専門性 | Y | 新しい分野 | Z | 意欲 | イ | X | 正確性 | Y | 他の分野 | Z | 意欲 |
| ウ | X | 正確性 | Y | 同一の分野 | Z | 社会 | エ | X | 独自性 | Y | 新しい分野 | Z | 意欲 |
| オ | X | 専門性 | Y | 他の分野 | Z | 社会 | カ | X | 独自性 | Y | 同一の分野 | Z | 社会 |